839
3
26

編纂本朝尊卑分脈圖脫漏 上

国立国会図書館　タイトル『編纂本朝尊卑分脈図脱漏 3巻』 請求記号 839-26

ガラス使用

編纂本朝尊卑分脉圖

私云異本第一卷脱漏

特進亞槻藤公定撰

嵯峨　仁明　文徳

曽山文庫

根岸信輔氏寄贈

昭和八年寄贈

国立国会図書館　タイトル『編纂本朝尊卑分脈図脱漏 3巻』 請求記号 839-26

ガラス使用

業良
三代實録貞觀十年正月十日丙午兄品業良親王薨嵯峨太上天皇第二之子也

弘仁 嵯峨

嵯峨天皇

仁明天皇
母太皇太后宮嘉智子

秀良親王 三品
母同 寛平七正廿三薨年七十九

業良親王 兄品
母三品高津内親王

二品式部卿兵部卿上野太守兼太宰帥

忠良親王 貞觀十八二廿薨年五十八
母女御百濟貴命 容顏美麗時人惜之

鎮守府將軍兼下野守俊哲女

叶 從五下氏爵

弘ノ一

国立国会図書館　タイトル『編纂本朝尊卑分脈図脱漏 3巻』 請求記号 839-26
ガラス使用

基良
日本畧紀天長八年六月
庚辰无品基良親王薨

基良 无品 母同 親王

淳王

右大將侍從治部卿參議
正二位左大臣
源信 後撰作者
母廣井宿祢氏
貞觀十閏十二廿八薨
五十九同十一年三月四日
贈正一位号北邊大臣
弘仁九五八勅書賜源朝臣貫右京六年六月十九日貫左京好読書傳兼嘉草隷又工畫畫丹青之妙馬形寫真太上天皇親自教習吹笛鼓琴箏彈琵琶等之伎思之所渉究其微旨乃至鷹馬射獵尤所留意

平 藏 從四上 右兵衛佐 丹波但馬ホ守
諠 藏 民部大輔正五下雅樂頭 改泰 大和陸奥守
有 藏 從四上 右馬頭
好 從五下 氏爵
保 藏 從五下 若狹守
播 從五下 越後守
固
文
萠
任 周防權守從五下 箏引
昌 從五下 紀伊守
諧 藏 從五上 遠江守 或信子
計 從五下 阿波守 天暦二卒

廣幡

信濃美作尾張守
參議左大弁治部卿宮内卿刑部卿
正二位大納言
源弘
母上毛野氏
貞觀五正廿五薨五十二
号廣幡大納言
好続經史尤善隷書諸子中弘
寂好孝特賜經籍故家多賜書
倍於他子弘尋読不倦兼好絲
竹每退衙之閑以琴書自娛
弘仁五年五月八日賜源朝臣貫於
右京六年六月十九日貫左京

同 從五上侍從大学从 刑部大輔中務少輔宮内少甫
撰 藏 從五上諸陵从安藝守
平 相摸守大膳大夫 從四上
雙 從五上諸陵从
弼 藏 從五上宮内大輔
惠 ホトコス 丹波守 右衛門權佐正五下 古今作者
給 筑後守 從五下
道 從五下侍從 伊与播广等守
女子 大輔 古今作者

希 頭 藏 弁 修理大夫民部少輔 右兵督右權佐左中將 從三位參議侍從 中納言民部卿
延喜二正十九薨年五十五
号 丹後守 從五下
訪 主殿从大藏大輔三河山城守 丹後守勘長官 從五下 太宰大二 学生 後撰作者
齊 讃岐守 左大弁
識 豊前守 從五下
等 頭 弁 右大弁内匠从 參議正四下 後撰作者 天暦五三十薨七十二
濟 淡路守 從五上 後撰作者
撰 鎮守府將軍

弘ノ二

国立国会図書館　タイトル『編纂本朝尊卑分脈図脱漏 3巻』 請求記号 839-26
ガラス使用

出羽越前美濃等守修理大夫
春宮亮大貳從四上
從三位參議左大弁

悅
母阿保親王女
延長八正八薨年七十五
上野介大藏大輔

就
使 從五下

尹
從五下

沿
從四上
大舍人仄

鑒
從五上中務少輔

昭
藏 左馬允加賀守
從五下 本名遷

致
從五下周防守

近
朱雀院判官代鑄錢長官
從五下甲斐權守

學
使 相摸介從五上
藏 右衛門佐

治
藏 越前守
或悅子

勲
トノフ
從五上
摂津守
後撰作者

楊
從五下相摸介
揚イ

守
藏 從五下伊賀守
阿波豊前伊賀等守

任
藏 大膳大夫從五下

皇太子傅
不經參議
左大將
左大臣
正二位兵部卿

源常
母 更衣飯高氏
古今作者
号東三條左大臣齊衡元六十三
薨四十三同十四日贈正一位
弘仁五五八勅書賜源朝臣姓貫
於右京六年六十九貫左京

興
頭 三代實錄云貞觀十四年十一月
十九日卒四十五
藏 右中將從五上

教
相摸筑前ホ守
從五下

頴
藏 但馬權守從四下
伊与權介備前守
刑部少輔

直
頭 右衛門督左大辨
參議從三位刑部卿
民部卿兵部少輔
昌泰二年十二月廿六日薨七十

同
從五下内匠頭
イ周

相
藏 摂津守正五下

備
藏 從五下

增
從五位下

超
從五下
伊豆守

聞
從五下

包
藏 中務大輔木工仄
文 民部大輔
從四下治部大輔

同
藏 正五下
或聞

国立国会図書館　タイトル『編纂本朝尊卑分脈図脱漏 3巻』 請求記号 839-26
ガラス使用

至
古今目録云仁壽元年十二月廿一日叙従五位下仁和元年正月十六日任右京大夫二年正月七日叙従四位上
同書云二條者古今作者至朝臣女

美作播磨尾張等守
中務卿治部卿
左兵衛督
右大将
正三位大納言
源定
母贈一位尚侍従二百濟慶命女
貞観五正三薨四十九
贈従二位一イ
号楊梅又四条大納言又号賀陽院
大納言天長五賜源朝臣同九正七叙従三位無位直叙之

宥 藏 従五下
侍従中務大輔
右兵佐相摸守
従四上
右京大夫
至
雅樂頭
大和守
従四上
侍従
精
左馬助
攀 舉イ
肥後守
尚
延喜二卒
和泉守
能登守
文 従五上
順 才人歌人
永観元卒七十三
趁 日向掾
貞 内藏少
教 武藏守 氏爵従五下
頼 後撰作者
女子 同作者
女子 古今作者二條
東寺長者
權僧正
寛静 号西寺僧正 亦如意寺 天元二十二卒 七十九
浮 ウカブ 肥前守従五下 後撰作者
女子 従五上 寵或浮子 古今作者
唱 左権佐 使 従四上右大弁
供 使 右少将従五下 左佐
左中弁左佐山城守
近江守従四上
右佐民部少輔
弁 五藏
俊 三事藏 母信濃守善基女 後撰作者
把 民 太宰少貳 豊後権守 従五下氏爵

加賀近江播磨越中阿波等守
刑部卿左京大夫大学以
参議正四位下
源明 賜源姓
母同常
嘉祥三十二於横川出家
法名素然仁壽二十二廿日
薨五十号横川宰相入道

雅樂頭
正四下右衛門督
藏 左中将左兵権佐
弁 左大弁参議
舒
頭 母橘氏公二女従五下時子
元慶五十一廿九薨四十九

藏 左工門佐
五藏 左中将
善 従四下
後撰作者
義 従五下 信濃守
類 従五下 伯耆守 内匠以
齊 越中越前守 従四上
正 上東門院 侍長 従五下

泉 正五下 少納言
女子 歌人 新古玉木作者
周子
母近江更衣大夫
左大臣高明公母
連
比 従五下
加 長門守 従五下
長保三卒
女子 左大臣高明公室
諧
嘉 東三條院判官代
女子 源満仲室 数多母
沃 河内守

弘ノ四

国立国会図書館　タイトル『編纂本朝尊卑分脈図脱漏 3巻』 請求記号 839-26
ガラス使用

實
古今目錄昌泰三年
月日卒

建 從五下
頴 氏爵從五下
遠 氏爵從五下
元 藏 左兵佐備中守 從五下
實 藏 信濃守左權佐 左少將從五下 古今作者
嚴 從五下

賜姓之後直叙從四上
加賀山城美作讃岐等守
正四下大藏卿
左京大夫治部卿
右衛門督
參議從三位
源生 賜源姓
母 從三位女御大原淨子正六上
家継女
貞觀十四八二薨五十四

加 氏爵從五下
浮

廣 從五下大藏少輔
泰

圖書允 從五下 前齋院侍 内藏介
親長
基親
寺 公親
從五下内藏介
盛行
實親長子云云 改姓藤原
光盛

起 氏爵從五下 伊賀守
學
勸 氏爵從五下
廣 大藏丞

寛
三代實錄云貞觀十八年
五月廿七日癸卯散位正
四位下云々卒年六十四

源寛 正四下宮内卿
母 阿部氏
見 氏爵從五下
矜 從五下
宥 氏爵從五下長門介

源鎮 散位從四上
母 百濟氏
後於神護寺出家号白雲禪師

源澄 无位
号田中君
治 從四上 大舍人頭
蔭 氏爵從五下
堪 藏 從五下
楊 藏 從四上 大藏少輔 揚イ
認 從五下 備後介
施 氏爵從五下

弘ノ五

益
三代實錄云元慶七年十一月十日癸酉散位從五位下源朝臣蔭之男益侍殿上悴然被格殺禁省事秘外人無知焉

安
文德實錄云仁壽三年四月戊子備中守從四位上源朝臣安卒時年廿二

清
一代要記云母正五位下秋篠高子後叙正四位下

是茂
公卿補任云光孝天皇第十皇子母近江守從四位上藤原門宗女實大納言舜卿男延喜七年正月七日從四位上同十年正月十三日美濃守同十二年正月廿七日侍從云云延長元年六月廿二日兼左京大夫同五年正月十二日左兵督

源安 從四上 備中守 母栗田氏
- 潤 從五下武藏權介 伊勢備中ホ守右兵佐 左京亮内藏頭
- 來 從五下
- 益 母從五下紀全子号紀伊乳母
- 寄
- 添
- 若 從五下 中務亟
- 准 宮内卿 少輔イ 從三位掃部頭
- 散 從五下 宮内少輔
- 寛筭

源清 正四下 号秋篠禪師
- 源融 近江伊勢備中守 右中將侍從相摸守 從二位按察使左右衛門督 左大臣皇太子傅 母大原金子 寛平七八廿五薨七十四贈從一位 号河原院 賜源姓貫京職
- 湛 延喜十四八十四致仕七十 延喜十五廿一薨七十一贈從一位 大弼左中將刑部卿 頭 從三位按察使 藏 大納言 母贈太政大臣 総継公女
- 泊 從五下
- 舜 弁 左權佐 頭 民部卿右兵工督勘長官侍從 藏 正三位大納言參議兼左中弁例伊与讃岐ホ守 延喜十八六廿九薨七十一 号河原大納言 古今後撰新勅作者

望 周防守 左京大夫
- 尚 從五下肥後守
- 副 從四上兵部大輔 嗣イ
- 女子 輔内侍
- 添 從五下武藏守
- 元 從五下 山城介
- 運 下野掾
- 增 從五下鎮守府將軍
- 貞
- 兼藝 古今作者

適 藏 氏爵從五下内藏頭
- 濟 陸奥掾 或若子
- 宮
- 趁 出家安法々師 拾遺後拾新古作者 母神祇伯大中臣安則女
- 女子 新古作者
- 女子 貞子 後撰作者

仕 氏爵從五下武藏守
- 憩 イコフ 廿余出家 往生人也

俊 藏 中務少輔從五下 為小松天皇子

是茂
- 師世
- 貞清

弘ノ六

国立国会図書館　タイトル『編纂本朝尊卑分脈図脱漏 3巻』 請求記号 839-26
ガラス使用

云云承平四年十二月廿一日
参議同五年十二月十七日
兼勘解由長官同七年
三月八日兼左大弁天慶二
年八月廿七日從三位權中
納言同年十二月廿七日兼民
部卿同四年六月十日薨
年五十六

淳祐
諸門跡譜上云天暦七年
七月二日寂六十四号普賢
院

衆望 五イ
伊勢守從四下
仁和第十六源氏是恒
為子仍不入子孫

女子 藤顯忠母 後撰作者

女子 小八條御息所 後撰作者

源勒 母同融
近江山城阿波伊与相摸播广尓守
右衛門督左兵督
宮内卿右中將
從三位参議
元慶五年五月十六日
薨五十八
号西七條宰相

温 從五下伊与守

激 氏從五下

襲 文章得業生 字源氏

海 氏從五下 但馬从 或激子

涼 涼イ

淳祐 石山内供 観賢弟子

浣 從四上 右馬頭

高 從五下

名 主水正

紀 從五下主水正

凝 氏從五下 筑前守 続古作者

伊 薩广守

摩 從五下

民

源勝 從四上 母大原氏
出家由蓮号竹田禅師

良 氏爵從五下

穏 從五下

弘ノ七

源賢 從四上越前越中 加賀等守

源啓 兵部卿 母山口近子

記 氏從五下

尋 氏從五下

講 氏從五下

救

合 從五下

隣 從五下

令

源継 從三位 淳和皇后

生 正四下参議治部卿義作守 イ嵯峩天皇子也

正子内親王 西院本願出家良祚 母同仁明

以上皇子源氏等二十二人皇女正子内親王以下二十七人
皇女等畧而不載之見帝王系圖矣

宛 箕田 源次无官

綱 渡部 頼光朝臣郎等四天王其一 源次別當内舍人 但仁明天皇四代孫源次敦為子養育云云

久 鎮西松浦之祖源二別當

箕田
渡部
松浦

啓
三代實録云貞観十一年八
月廿七日壬子卒時年四
十一

国立国会図書館　タイトル『編纂本朝尊卑分脈図脱漏 3巻』 請求記号 839-26
ガラス使用

依宣旨改公頼
松浦小源二

正（マサシ）
紀（松浦）
好（松浦）
両人兄弟也
弘（同ヒコム）
武（同タケシ）
繁（同シケシ）
月（同ツキム）
増（マサル）

安（ヤスシ）
瀧口従五下

貞（サタシ）
源六

直（ナホシ）
源大夫

聞（キコユ）
源大夫

収（ヲサム）
忠（タヽフ）
洪
憑（タノム）

竪
明（アキラム）
任
萠（キサス）
始（ハシム）
持（タモツ）

向（ムカフ）
極（キハム）
勇（イサム）
移
右馬允

隆（タカシ）
笠
内舎人
結
叶

順
摂津権守

悟（サトル）
瀧口左衛門尉
走
源八

知（シラル）
揚（アカル）
渡（ワタル）
武者所
頻（シキル）

精
摂津権守
従五上

勸
増

弘ノ八

国立国会図書館　タイトル『編纂本朝尊卑分脈図脱漏 3巻』 請求記号 839-26
ガラス使用

- 傳 滝口大夫従五下惣官 白川堀川二代瀧口
  - 重 惣官 烏羽院北面 瀧口 左エ門佐
    - 滿 左馬允 滝口
      - 語 カタル
      - 省 渡邊 ハブク 播磨守 保元合戦之時頼政一味
      - 備 滝口 源四郎
    - 教 ヲシフ 源五郎
      - 唱 トナフ
      - 連 渡邊 源太 ツラヌ
        - 尋 タツヌ
    - 親 瀧口惣官 左衛門尉
      - 調 源二武者所 詞イ
  - 學 刑部丞 マナブ
    - 增 死官 マス
      - 名 左兵衛尉 ナヅク
        - 昵 左衛門尉 シタシ
          - 說

- 授 渡邊 惣官 兵衛尉 薩摩守 サヅク
  - 湛 源二兵衛
    - 衛 源左エ門尉 ナラフ
      - 全 滝口左エ門尉
        - 接 左兵衛
          - 貞 薩广守 号中屋 法名光秀
  - 繁 豊前守 シゲシ
    - 兼 三郎 左衛門尉
      - 賦
        - 勝
      - 昌
      - 經 二郎 左衛門尉
        - 企 滝口 左衛門尉 念イ
          - 基 兵衛尉源次 モト井 号白井
- 與 源太 右馬允
  - 語 左衛門尉 カタル
    - 名 左衛門
      - 告 刑部丞 左衛門尉 ノブル
        - 契 十郎 チギル
          - 薫 二郎左衛門 号曽祢崎
- 廣 ヒロシ
  - 健
    - 濯
- 頻 シキル

弘ノ九

国立国会図書館　タイトル『編纂本朝尊卑分脈図脱漏 3巻』 請求記号 839-26
ガラス使用

- 昇（ノホル）　瀧口右馬允
  - 渡邊
    - 競（瀧口）　頼政郎等　源七
      - 馴（ナツク）　瀧口
    - 總
    - 治（タモツ）
- 計
  - 清
  - 來　左衛門尉右馬允
    - 副　左衛門尉　武者所　後源二
  - 諧（カナフ）　瀧口
  - 稱（ナノル）　武者所
    - 谷（コタフ）　源太
    - 持
  - 澄　瀧口
    - 策
- 令　瀧口
  - 房（フサヌ）
    - 滋　帯刀
      - 語
    - 經　内舎人（ツネシ）
    - 把
  - 翔（カケル）
  - 至（イタル）　源七大夫　左馬允　従五下
    - 雙　瀧口左馬允
      - 加　左馬允
        - 注　従五下　左馬允
        - 仕（ツカフ）　瀧口
        - 向（ムカウ）
        - 任（マカス）
        - 儲（マウク）
      - 長（ナカシ）
      - 好（コノム）　甲斐四郎
        - 於（ヲイテ）
          - 譬（タトフ）
          - 騷（サワク）
          - 習
        - 勸　源太夫
          - 契（チキル）

弘ノ十

国立国会図書館　タイトル『編纂本朝尊卑分脈図脱漏 3巻』 請求記号 839-26
ガラス使用

赤田

- 勝（使衛門尉 源八大夫）
  - 擇（ヒラク エラフ）（瀧口従五下）
    - 及（従五下 兵庫ノ 源二）
    - 畝（マカス 従五下左衛門尉 源三大夫判官）
    - 聰
  - 引
    - 行
      - 渡
      - 聽
- 繼
  - 番
    - 潘
      - 翊
  - 進
- 定（源大夫）
  - 了（サトル 源二兵衛）
    - 恒（源太左馬允）

關東祇候
出家法名昭定元久二八本知行所帶等事
賜右大將家御下文文暦二九十四所帶安堵
被下後將軍家御下知嘉禎四年四月十二日
被下御公事被充事御書

- 有（アリシ 源三兵衛尉 法名有阿）
- 等（赤田 兵衛尉 法名等佛）
  - 任
    - 親（シタシ 八郎大夫）
      - 持（源五）

越後國赤田保地頭職相傳

弘ノ十一

抑

人康
三代實錄云貞觀十四年五月五日甲戌薨

興基
三代實錄云元慶四年二月八日壬辰左京人從四位上行左馬頭兼伊勢守興基王賜姓源朝臣

承和 仁明

仁明天皇

文德天皇

宗康親王

光孝天皇

人康親王
四品 彈正尹 常陸上総大守
母 贈皇太后宮藤澤子贈太政大臣総継女
貞觀元年五月七日出家法名法性
号山科宮又北野親王

女子 清和女御正五位下 宜子

敏相王 左兵衛佐

忠相王 從五下右兵權佐

興基
伊勢播ナ等守左馬頭
右中將宮内卿彈正大弼
頭 正四下參議
寛平三九十卒四十七

興範 摂津守 從四上

三代実錄云元慶四年六月廿日癸卯左京人云々並賜姓源朝臣即是從四位上行左馬頭源朝臣興基之男女也興基賜姓之日脱落不載故今追賜焉

弘ノ十二

并 孫二郎

紀

傳 ツタフ 五郎

納 十郎 法名本佛

應 孫十郎

備 赤田十郎

榮 サカフ 左衛門尉

向 源二 實備子
貞和四年於河州風森合戰討死廿四

直 孫二郎 左エ門尉

高 從五下 肥後守 彦二郎

成 孫二郎

告 源太
觀應二九十七於江州蒲生野合戰討死四十九依無実子自先年以舍弟向為子

長 文五郎
法名善阿
赤田保地頭職當知行

興範
三代実録云元慶六年七月辛丑朔従四位下行丹波権守興範王散位従四位下興扶王並賜姓源朝臣仁明天皇後人康親王之子也

興扶
三代實録云元慶八年正月十九日辛巳卒

本康
一代記云延喜元年十二月十四日薨

希世
日本紀畧云延長八年六月廿六日戊午従四位下行右中弁兼内藏頭平朝臣希世顔焼而卧云云

空也
紹運録云六波羅蜜寺本願寺号市上人念佛脩行常康親王子○諸門跡譜上巻云常康親王男仁明天皇孫也空也上人法諱光勝六波羅蜜寺開基云々○按紹諸ノ説不審ヲハ一代要記古今目録等ニハ常康親王ハ貞观十一年五月十四日薨トミユ今年ヨリ元亨ノ釋書ノ空也ノ傳ニ空也ハ天禄三年九月入滅ノヨシ年七十トアリコノ間常康王ノ薨ヨリ三十五年オクレテ安喜三年ニ生レタリ釈昏ニ不言姓氏マタ扶桑畧記明匠畧傳ナトノコトク父母ヲイハストカケルフタ〻シキニ似タリ

仁明天皇御紀云承和二年四月乙亥朔二日丙子勅曰云云如今所有朕之児息除親王之号賜朝臣之姓云云不令別姓被以源氏便云云

同蔭共渭泒而混流云云

太宰大貳弾正尹
上総大守兵部卿
一品式部卿
本康親王
母女御綱子参議貞主卿女号八條宮
國康親王
成康親王
常康親王
空也上人

雅望王 賜平氏 左馬頭従四上
行忠王 賜平氏 山城守従四上
修平王 右京大夫従四上
平惟時 大舎人頭
源兼似 大貳従四下 弁縫殿頭阿波守
佐幹 三川守正五下
佐忠 安藝守正五下
在寛 右京大夫正四下
清忠
業任 従五下駿河守
慶尋 山号駿河律師 後拾作者
忠孝 太宰少監 文
忠依 従五下 拾作者
真正 正五下
仲政 従五下
文 篤信 采女正
希世 藏 右中弁従四下 右少将内藏頭 後撰ホ作者
興扶 侍従従四下
女子 昭宣公室
随時 頭 母中納言山蔭女 天暦七十二十八於太宰府卒年六十四
遠江丹波等守春宮亮内竪頭修理大夫左権佐太宰大貳内藏頭参議正四下廷尉佐列

源兼仁 因幡介従四上
源朝鑑 豊後守従五上
源朝憲 丹波介従五下
源由道 備前阿波守従四下
源保望 従四下
女子 従四上廉子女王 左大臣時平公室大納言保忠卿母
女子 齋宮 元子女王
惟輔 中宮大進 従五下
輔成 藏 周防守 母参議忠文女
輔忠 従五下
女子
淵 藏 正五下 豊後守宮内大輔 侍従

第一源氏越前備中守
嘉祥三三十九仁明天皇御出家之時同出家
阿波美作伊勢ホ守
按察使宮内卿
左衛門督左兵工督
左大将正二右大臣
源多
仁和四十十七薨五十八贈従一位

弘ノ十三

国立国会図書館　タイトル『編纂本朝尊卑分脈図脱漏 3巻』 請求記号 839-26
ガラス使用

渡部

左衛門督
左兵衛督
但馬近江伊勢守
左馬頭宮内卿
参議従三位

源冷
寛平二二廿五薨五十六

皇太子傅
左兵督美作守
使別當
民部参議
左大将正二位
右大臣

源光
延喜十二年三月十二薨六十九
贈正一位
鷹狩之間馳入塹中
薨其骸不見云云
号西三條右大臣 新勅作者

- **通** 従五上 越中介
- **備** 従五下 紀伊守
  - **進** 但馬丹後出雲信濃守 従四下
  - **任** 従五上治部大輔
  - **漑** 従五下美作伯耆守
  - **清** 従五下
- **静** 左少将正五下
- **淨** 左少将
- **興** 従五下
- **賢** カシコシ 左少将
  - **敦** アツシ 源二 多田満仲聟
    - **綱** 渡邊之祖 實左大臣融公曽孫 箕田源二宛男也
    - **眤** ムツフ 刑部少輔

源覺 正四下宮内卿 母山口氏

- **濟** 圖書頭従五下 大宰少貳
- **脩** 圖書頭従五下
- **都** 加賀守

源効 従四下

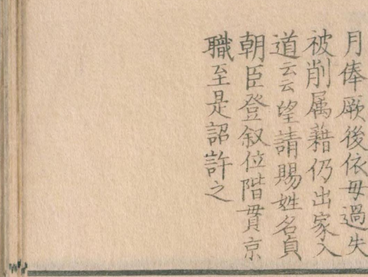
源登 正五下 土佐大和権備中越中紀伊木守 賜貞朝臣姓 古今作者 母更衣三國町

高子内親王

以上皇子等十四人又高子内親王以下
皇女十人也畧之 見帝王系圖矣

弘ノ十四

覺
三代実録云元慶三年十月廿日丙子卒年三十一



登
三代実録云貞観八年三月二日戊寅勅沙弥深寂賜姓貞朝臣名登叙正六位上貫右京一條一坊先是貞観五年九月二十日三品行中務卿諱光孝天皇親王云云等奏言深寂是仁明天皇更衣三國町所生也承和之初賜姓源朝臣預時服月俸厥後依母過失被削属籍仍出家入道云云望請賜姓名貞朝臣登叙位階貫京職至是詔許之

国立国会図書館　タイトル『編纂本朝尊卑分脈図脱漏 3巻』 請求記号 839-26
ガラス使用

無覽王
古今目錄云承平二年
月日卒

三國町
古今目錄云三國町者
四位下紀名虎女仁明天
皇更衣貞朝臣登母
登者仁明天皇第十五
子也

仁明第一皇子
文德天皇
母太皇大后宮藤原順子
贈太政大臣冬嗣公女

天安 文德

天安二八廿七山陵於谷泉院廿二
同九月六葵田邑陵号田邑帝

彈正尹太宰帥上野太守
四品
惟喬親王
母從四下靜子紀名虎女
貞觀十四出家法名素覺
同十五二廿薨廿六号小野宮

正四下山城守中務大輔
神祇伯宮内卿民部大輔
無覽王
古今後撰作者

三國町
古今作者

四品上總大守
惟條親王
母同惟喬
貞觀十九十四薨年廿一

從四位下
四品
景式王

直子女王
齋院仁和五卜定
或本惟彦女云云

国立国会図書館　タイトル『編纂本朝尊卑分脈図脱漏 3巻』 請求記号 839-26
ガラス使用

惟彦
三代実録云元慶七年
正月廿九日丙申薨年四
十四

惟恒
日本紀略云延喜四年
四月八日薨

本朝童帝始

清和天皇 諱惟仁
母太皇大后宮明子右大臣忠仁公女
染殿后是也

元慶三五八御落飾法諱素真随宗叡僧正御灌頂
同四十二四崩廿二年葵水尾山納御骨於山城國栗田山
号水尾帝

惟彦親王 四品中務卿太宰帥弾正尹常陸太守
母参議滋野貞主女

惟恒親王 三品兵部卿治部卿上野太守
母藤原今子参議守貞女

惟世王

寧轉 従四下 能登守 従五下 或惟彦子

遂良 長門守従五下

安生 従五下美作守

時方 従五下 伯耆守 陸奥守従五下

道方 従五下 遠江权

輔國

安直 右近将監従五下

孝平 従五下

女子 命婦 共攻朝臣妾 拾遺作者

每有 従四下 仁壽三六賜源姓
母丹墀氏
天安三三五入道灌頂

能有 古今作者
母伴氏
右第一皇子也 寛平九六八薨五十三
同十六贈正一位号近院右大臣

大藏卿左二門督皇太子傅左兵衛督民部卿按察使
捡非遣使別當正三左大將右大臣仁壽三六賜源姓

時有 仁壽三六賜源姓
母清原氏
每有同日出家

本有 治部卿正四下 仁壽三六賜源姓
母滋野氏

定有 正四下 大藏卿左中將
母菅野氏

綏之 従四下 因幡守

雅固 従五下 内匠頭

雅範 従五下 攝津守

女子 右大臣恒佐公妾 有相卿母

實時 勘解由次官

雅信

能信

景日 僧

定有
一代要記云仁壽三六賜
源姓

国立国会図書館　タイトル『編纂本朝尊卑分脈図脱漏 3巻』 請求記号 839-26
ガラス使用

行有
三代実録云仁和三年六月廿日壬戌卒年三十四

冨有
紹運録云貞観三賜姓
○三代実録云貞観三年四月廿五日行有冨子淵子男女三人賜姓事見ユコノ時ノ事カ疑ラクハ冨有ハ冨子ヲ譌テ剰ヘ男女二人トス冨有ト云人此書ノ外所見ナシ

美作守
正四上太宰大貳
行有
母布勢氏
貞観三四廿五賜源姓
清雅
三總

正四下
周防守
載有
母同本有
仁壽三六賜源姓
從五下越後守
邦紀
仲文
僧
千惠

加賀守
清廉
行方
行義
忠全

冨有
仁和三三卒

儀子内親王

以上皇子源氏等十三人皇女儀子内親王以下廿一人
但皇女略而不載之見帝王系圖内焉

從五下
讃岐介
當元
從五上
因幡守
人鑒
從五上
備中介
兼遠
母右少將藤季綱女
崇年
僧
慶助
僧
暹清

檢非違使別當
從三位中納言
當時
新勅作者
延喜廿一五四薨年七十五

藏正五下左少將
忠相
左近將監
相平
為泰
為國

文
五藏
頭
内藏頭左少將
從四下左大弁
相職
式
天慶六四九卒年四十三

藏
頭
文
從三位修理大夫
參議右中將
惟正
母源當平女
天元三四廿九薨年五十三
惟繇

弘ノ十七

国立国会図書館　タイトル『編纂本朝尊卑分脈図脱漏 3巻』 請求記号 839-26
ガラス使用

藏 當相
相明
正五下 伊勢守 相國
典藥 久 忠直
式 木工頭 藏 忠教
帶刀 忠信
從五下因幡守 弘景
典藥助 忠直 兄同名如何 若同人歟
惟長
惟光
藏 因幡守 弘重
行成
弘景

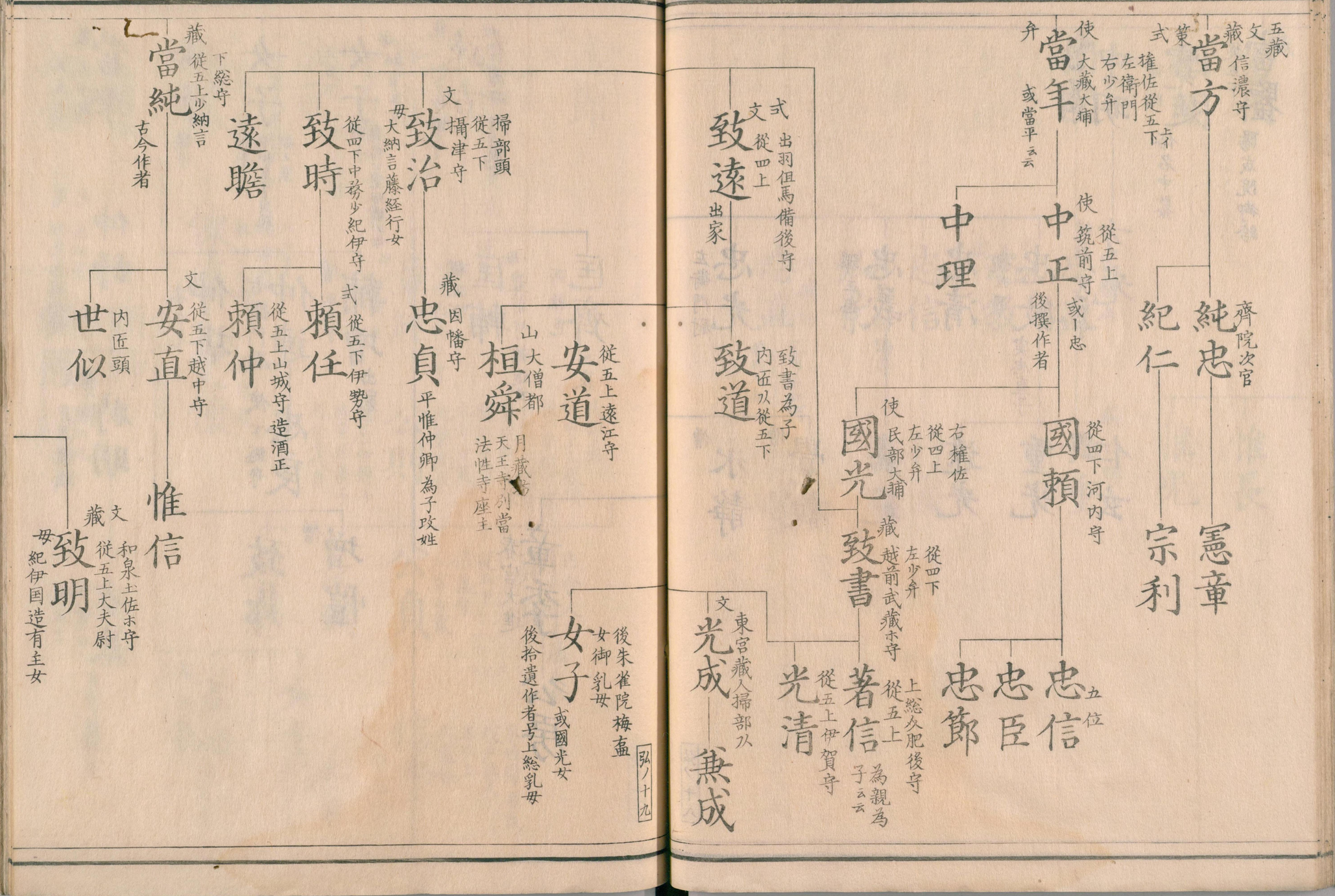
左衛門尉 忠光
彈正忠 忠義
忠清
從五下 忠敏 実忠直子
僧 永靜
僧 覺叡
嘉範
遠光
重光
僧 仁玄

藏 加賀守 中明
律師 寛延 俗名中鑒
從五下 當鑒 陽成院御給

弘ノ十八

国立国会図書館　タイトル『編纂本朝尊卑分脈図脱漏 3巻』 請求記号 839-26
ガラス使用

按中理ハ正ノ譌リテ二人トシタルヘシ



国立国会図書館　タイトル『編纂本朝尊卑分脈図脱漏 3巻』 請求記号 839-26
ガラス使用

紹運録云儼子已下三女為能有子

- 當季 藏 正五下 左少將
  - 仲舒 文 但馬出羽ホ守 式 從四下
    - 時明 文 藏 左馬權頭 從四上
      - 方基 從五下 伊賀守 実伯父致明男
        - 方弘 文 藏 阿波守 致明為子
        - 女子 東三条院女房 馬内侍
      - 致節
      - 增愷 僧
  - 仲堪 木工允
  - 仲連 右衛門尉 使下総守
    - 忠良
  - 輔增 僧 正五下 出家
- 女子 儼子
- 女子 柄子 清和皇子貞純親王室
- 女子 正五下 昭子 貞信公室師輔公母 母昭宣公女
- 遠古 藏 正四下 伊勢守 母信濃守守義女
  - 匡輔 從五下 母豊前守 輔近女
  - 匡齊 所雜色 出家
- 章季 春宮大進
  - 公房

坂戸

按公則已下近康已上諸家大系圖九巻房前公五男魚名公末孫公則已下近康已上宜合見

- 遠節 從五下 母同
- 遠理 左將監 出家惟圓
- 兼宣 藏 式部亟 出家 母伊賀守藤原守文女
  - 章經 坂戸 從五下 河内出雲ホ守 母伊傳女
    - 公則 民部亟 從四上主殿頭 後二条殿下家司河内信濃伊賀肥後尾張駿河ホ守 太宰少貳 施藥院使 藤原伊傳子 為章經養子 利仁五代孫
      - 則明 内舎人 藤氏也
      - 公貞 從五下 信濃守 太宰少貳
        - 信季 本姓帰源氏 坂戸住人 正六上 大監物 實忠念子
      - 長綱
      - 忠念 号坂戸禪師 住河内坂戸
- 惟章 從五上左少將左兵佐 母從三藤原國章女
- 兼業 藏 從五下 薩广守
  - 懷信 正五下 攝津守 春宮大進
    - 定懷 山 權律師
- 兼資 藏 左馬權頭 正四下 伊豫守
  - 頼仲 正五下 山城守
  - 頼兼 從五下 伊勢守

弘ノ二十

国立国会図書館　タイトル『編纂本朝尊卑分脈図脱漏 3巻』 請求記号 839-26
ガラス使用

藏紀伊守
無相 本速相

女子

白河院御治天之時始被召出出身致公
廷奉公蒙官禄自當帝脱履以後始而
被召置北面衆最初之随一也應徳之比參
候寛治年中候北面云云

号坂戸大夫判官又坂戸源氏
本住河内國坂戸牧即為本
領也
右衛門少尉使宣北面永久五
正廿一防鴨川判官保安二九
廿從五下叙留

坂戸
康季
母源頼時女
大治五三十四卒六十四

使
季範 瀧口北面
出家法名西範

鳥羽院坊瀧口左馬允自五藐座依別功拜任右衛門尉永久二十一廿四
使宣大治三正廿四轉左尉從五下叙留保延三十六追捕賞從五上大
治四十十四八幡賀茂行幸行事賞河内守同六三廿七任紀伊守久安四
三廿八周防守仁平二正廿八法勝寺修造賞鳥羽院北面近習

季頼
諸本云是叔父近康
於陣中搦捕殺害犯
人賞譲トアレトシカラス
拙叔父近康ノ條ニ含ム
季範令殺害皇后宮
侍長犯人搦捕之賞譲
トアリ譲タル宮ハ右門尉
ナリコレヨリハ父季範ノ
賞ヲ弟ノ近康ニ譲リタ
ルナリソレヲ長兼三年六
月廿八日マタ叔父近康ヨ
リ季範ノ子季頼ニ譲
レリ

是叔父近康於陣
中搦捕殺害犯人
賞譲

使
季頼
久安七正二辛年卅
右衛門尉長承
三六廿八崇徳院
北面左衛門尉
永治元十二使宣
近習者周防守
従五下

蓮信
沙弥

季國
母中原守房女

二条院坊帯刀右小鳥右衛門尉使宣
壽永二正廿二日同年八月為官軍副
将向北陸道平家没落後相伴義仲
同十一月廿八日解官是法住寺殿合戦
之時依倭仙洞義仲申行之元暦元
四二還任使等文治五七十叙留則
捕獄執行建久三十廿八防鴨川判官
同六三十二東大寺供養行事賞辞一
階以子息季景申任右衛門尉同八
年法勝寺奇検非違使同九年十二
廿二従五上大原野行幸行事之賞
元久元任下野守建仁四十二正五位下

安徳天皇坊帯刀歩射
小鳥賞右兵衛尉治承
四三一帯刀右衛門尉
同廿八東大寺供養行
事賞後鳥羽院北面

季景

弘ノ二十一

国立国会図書館　タイトル『編纂本朝尊卑分脈図脱漏 3巻』 請求記号 839-26
ガラス使用

季忠 承久乱季康相具 後堀河院北面右馬允右衛門尉

季重 後嵯峨院坊帯刀同北面右衛門尉

季茂 歌人 亀山院北面左衛門尉 出家

季有 後宇多院北面同坊帯刀左衛門尉

季清

季盛

季兼

女子 尼妙心

季政

女子 中國妻

女子 康実妻 法名清圓

季實 左衛門少尉河内守 從五下叙留 仁平三正廿八使宣 平治元正廿六 母下野守敦快女 保元之乱之時祠候禁中為官軍發向則召進教長卿保元

季盛 平清盛公為子 二条院坊右小鳥 平治元十二卅與父同時被誅

季成

季道 依父事解官 二条院坊帯刀右兵尉 平治元十二卅父一所被誅

季次

季重

女子 信景妻 宮人

季兼 後白川院武者所

季親 右衛門

季久 宮内丞藏人所衆

弘ノ二十二

元二八二停任是少納言入道信西天王寺参詣共事依令辞退申沙汰之籠居平治元十二三信頼謀反同意仍還任又任河内守信頼敗北又解官同十二卅被斬首

季長 右馬允 本ー經實者中原宗房子也

季定 松尾 右工門尉刑部丞 本ー貞

季能 瀧口右兵衛 号鳥羽兵衛

阿觀 周防禪師

行基 院判官代内匠助

季資 掃部助

季高 七条院藏人

国立国会図書館 タイトル『編纂本朝尊卑分脈図脱漏 3巻』 請求記号 839-26
ガラス使用

永修 法橋

永久三正一舍兄季範令毅宮皇后宮侍長犯人搦捕之賞讓使宣大治四六廿三兄季範依轉左也永治元十二廿二從五上天養二正廿八賀茂石清水行幸橋渡賞鳥羽院北面藏人所衆左右衛門尉壹岐守從五上叙留安元元十一廿五依病出家同廿七卒年五十

使 近康 北面
母 隨身下野守近季女

使 資遠 從五下叙留右衛門尉 大治元十一八卒

使 仲頼

僧 康寛

僧 康兼

使 忠遠 為平忠盛子改平姓 從五下左衛門大尉

資康 大學助

資仲 出家

仲重 右兵尉

忠成 左兵衛尉 帰本姓

宗兼 左衛門尉

資朝 二郎

女子 伊賀守行光妾 皇太后宮大進行頼母

北面 使 仲頼 後白河院北面 和泉守左衛門尉 實柏泉卜部兼仲子也 依平相國訴配流讃岐國又被召返

女子 六条判官為義妾 頼仲母

仲景 右兵尉

仲宗 左兵尉 木工允

近衛院坊帶刀崇徳院初度北面右兵右衛門尉久安六二廿七使宣長寛二三三防鴨川判官承安元四七修理左宮城判官從五下同四十二辞防鴨川判官河内守治承四正廿八肥前守同年十二遷任

使 康綱
母 備中守大江信政女 正治元四一卒年六十八

使 康信 近衛院坊帶刀右小鳥掖 平治元十二十四使宣承安四十二左工門尉 安元元十一廿五出家 同廿七卒年五十
母 左衛門大夫宗景女

弘ノ二十三

国立国会図書館　タイトル『編纂本朝尊卑分脈図脱漏 3巻』 請求記号 839-26
ガラス使用

- 惟康 号福田 左衛門尉
  - 有康 左衛門尉
    - 康行 右衛門尉
      - 久康 右衛門尉
        - 持康 左兵尉
          - 康淳 瀧口帯刀 左衛門尉
        - 康躬 右小鳥帯刀
  - 康宗 康基子云々 左兵尉 出家
    - 康圓 九品寺長老 浄導上人
  - 康村 右兵尉
  - 康仲 康基男云々
  - 康貞
  - 康賢 僧法橋 東
    - 康持 左兵尉
    - 康藤 左兵尉
    - 康澄 左兵尉
      - 康世 左衛門

- 康基 二条院坊帯刀 右兵衛門尉右小鳥
  - 康仲 右馬允 左兵門尉
- 師康 左兵尉 小木八郎 左兵尉
  - 康氏
    - 康房
    - 康茂 本一種
      - 教康 左衛門
- 定康 二条院坊帯刀 右兵衛
- 康範 左衛門 実季實男
  - 康貞 右門尉
  - 心證 樂覺房 号自貴上人 式真一
  - 頼印 性真房
- 康朝 左衛門

国立国会図書館　タイトル『編纂本朝尊卑分脈図脱漏 3巻』 請求記号 839-26
ガラス使用

康致 大藏丞 左衛門
神祇少副伊岐致景女
致豊男

康重 順徳院北面 下総守 左衛門
致久 後堀河院北面 山城守右エ門尉 従五下
致兼 右エ門尉
使 致光 常磐井宮伺候後 後宇多院北面伯耆守 弘安十六廿三使宣 本ー親
康房 内舎人 イニナシ
康房 左衛門尉
貞綱
康仲 四郎
貞綱 内舎人 改姓藤原
近澄 或ー綱 八郎
康澄 九郎
康仲 應仁五五強盗追捕賞叙留 使 壹岐守左エ門尉
康氏 左エ門尉
康兼 河内守左エ門尉
康房

康房 左エ門尉内舎人
圓定
女子 隆捕妾

致範 文保元三廿三使宣 花園院北面 使 常陸介左兵衛尉
致景 左衛門尉
致成 常磐井宮伺候 左衛門尉
致國 右衛門尉 後二条院坊帯刀
致長 左衛門尉正慶二二使宣

康實 使 母中原景兼女 寛喜二三五卒
康兼 左衛門尉
康繼 左衛門尉
康種
康宣
康朝
康景 左衛門尉文暦二四七使宣隼人正 壹岐守嘉禎二七廿従五下同年八 七叙留寛元三五一還任右尉使 如元希代例也
母下野守季國女 建長八二十二卒
季綱 左衛門尉
康長 左衛門尉
季兼 左衛門尉
季継 左衛門尉 出家
季俊 左門尉

弘ノ二十五

後鳥羽院北面初度衆 高倉院坊帯刀右小鳥 掖左兵衛尉仁治三三九 防官賞左衛門治承三 正十九賞譲防鴨川判 官正治元従五下叙留建 仁二十一十九壹岐守承元 元正十四補獄執行同四 八廿五従五上春日行幸行 事賞建久六六十一使宣

左衛門尉
康高
季村 左門尉
康茂 左門尉
康家 左門尉
季久 右兵尉
祐憲 石見法眼
康恒 左衛門尉
康有 左衛門尉

左衛門尉正元元品
十七使弘安七十二廿
五從五下同九七廿一
周防守同十一三十四
隼人正
康頼
正應三五三卒

使 不申畏職之
後叙爵
左衛門尉
康無
康永三出家康佛
康安二於播磨國
菅生死
康夏 武者所左二門尉

康経
康友

武者所
左衛門尉
康房
永仁七三廿九於近衛川原對武
家人討死康房康家康冬同
時三人討死敵本人以下六人討捕

左衛門尉
康家
左衛門尉
康隆
使 貞和四十三四使宣北面
左二門尉從五下尾張守
康任為子
康無

左衛門
康冬
実康隆男
康興
康無 猶子
異本无

左衛門尉
康右 北面
康秀

左衛門尉
康富
母康夏女
康豊

弘二十六

国立国会図書館　タイトル『編纂本朝尊卑分脈図脱漏 3巻』 請求記号 839-26
ガラス使用

使 **康遠** 弘安五四廿九 卒年七十一
文永十二廿一壹岐守 文應二四七使宣同八月三日叙留弘長二十二從五上左馬允

使 **康連** 正和二十十七出家 康圓一院依御出家也正慶元十二十六死八十二
北面使正應三九廿一使宣同二四廿三叙留同五七廿三下野守嘉元元四十六隼人正正和元七十一刑部權少輔

使 **康貞** 嘉元二依後深草院崩御出家康西
北面左工門尉 永仁六七廿六使宣壹岐守

康清 左衛門尉叙留壹岐守從五下 瀧口

康範 北面使 正和四三十三使宣左工門尉 瀧口

康村 瀧口左衛門尉

康宗 延文三六廿二出家四十四才法名心康
北面使叙留左工門尉 從五下河内守

康有 北面直任左衛門尉

康長 後小松院北面

康基 左衛門尉主殿首

康勝 早世 瀧口

康文 異本无 左衛門尉

康幸 本直

使 **康任** 出家康淨
花園院北面 使宣左衛門尉 從五下叙留

康守 貞治七十一卒年四十二
光嚴光明 両院北面 左衛門尉 主殿首

康直 改宣
永徳二四十五喧嘩死

康里 異本无

康衡 左衛門
北面所司 貞和六十十九

康定

康行 後小松院北面

康繼 母大和守成重女
後白河院侍 後高倉院 北面摂政随身内舎人木工允

康親 左衛門尉

康胤 延文三六廿三依病出家心康四十四 康暦二河内國没河死
河内守貞和五九十三同日 從五下文和三正六叙留 小鳥左兵尉帯刀

康仲 北面左馬允 瀧口左衛門
暦應五遁世宗真 住建仁寺

康武 左衛門尉

康光 滝口左兵尉

康嗣 延慶二十一十九早世 左衛尉
正應五左衛門延慶二十一 主殿文保二八廿四

後深草院北面 建長三八一 木工允弘安

弘ノ二十七

国立国会図書館　タイトル『編纂本朝尊卑分脈図脱漏 3巻』 請求記号 839-26
ガラス使用

康春 七六廿三左工門尉 正應三二廿 下総守
実橘康光子 延慶三六九出家 康念依主人吉田 大納言経長卿薨 也元應二九九卒

使 康雄 正和三正四使宣主殿首叙留 壹岐守左門尉希代之朝 臣也隼人正從四下
貞和四四四薨心道精

康直 左馬允
康音 内舎人

使 康雅 文保三正九 左衛門尉 元亨二十三 主殿首
康奉 左衛門尉

康丁 帯刀右小鳥左衛門尉
康香 瀧口一臈内舎人

康俊 後嵯峨院北面 左衛門尉

使 康義 後宇多院 北面左衛門尉
建武三六山門合戦伺候於 六條川原被誅

康氏 帯刀左衛門尉 本一盛
康政 為藤時定子改能實 帰本姓

康範 帯刀左工門尉 後嵯峨院北面 内舎人随身

康秀 左工門尉

康胤 右衛門尉

康國 左兵尉
康任 右兵尉

康有 号河内阿闍梨 号勝阿弥陀佛

使 康重 後白河後鳥羽二代 北面又順徳使宣左 衛門尉壹岐守河内 守從五下安貞元四廿使宣
母上野介中原景兼女 寛喜四九八出家康圓

康光

康資 大夫局 女子

康永 左衛門尉
康村

康清 左兵尉 早世

康廣 後堀川後嵯峨二代北面左馬允左兵衛尉 木工助宝治二九廿四使宣建長元六廿三從 五下叙留同年十二四補獄犯行同七年從 五上壹岐守又河内守
母藤原頼守女

康衡 帯刀右工門 北面肥前守
康光 左衛門尉

實景 木工允六郎 右衛門尉帯刀
親實

康能 帯刀右工門尉 木工允
康名 左門尉

弘ノ二十八

国立国会図書館　タイトル『編纂本朝尊卑分脈図脱漏 3巻』 請求記号 839-26
ガラス使用

七郎内舎人
康房

清綱 早世

近綱 早世

山卧肥後阿闍梨
能重

山寺主
快俊

法橋
快尋

法眼
快舜

阿闍梨
快賢

僧
快秀

法眼
快尊

僧
快禪

康清妻康宗母
女子

左門尉
康茂

快辨

快祐
異本兄

康直

友師妻
女子
異本兄

亀山院北面
後深草坊小
鳥大宮院衆
弘安七正十三
左衛門尉同
七正廿六使宣
正應二七廿六
叙留
從五下
壹岐守
豊後守
北面使
康忠
母石見守源季正女
永仁五七廿四卒年四十九

左衛門尉
康有

康世幼少之時父早世之間依申置康光年少之時
加扶持令致本所出身相續了元應二六一本所洞院
右大臣家於北野社作文之時因當社東門同日本
呼神拜此時申了洞院并公廷奉公
後宇多院呼司
北面建治二
三十三右衛門
正安二十二廿三
左衛門尉
元應二五十二
使宣
北面
康世
母田使貞職女
元應二十二九
卒年卒康心

後伏見院花園北面
右小鳥後二条坊帶刀
正和二八廿二
北面 左衛門尉
康持
母藤原信重
女
法名阿蓮
暦應二十廿
卒年五十四

光巖後光
巖元北面
元亨四正十三
左馬允元弘
四正十四左衛
門尉正慶元
十二十四右門尉
北面
康成
母周防國住人
康暦元正十五
頓死

後光巖院
武者所
左工門尉
内舎人文和始
藏人所一臈
康豊
母大江久景女

弘ノ二十九

亀山後宇多二代官女
達智門院右京大夫
延政門院臺所別當

女子 康子
号飛鳥井

廣義門院官女
右京大夫

女子
先日野資明卿
室三室院光濟
僧正母
後隆蔭卿室
隆家顕任ホ母

右馬允應安二四十九
兄弟同日右衛門尉
後光後圓北面

母同 康音

左衛門尉所衆
北面

季景
本景康
正長元三十六死

應安藏人所
一揆 後小松院
北面

康定

山徒 金輪院同宿妾

女子

中原家景妾

女子
隆仲卿妾隆躬母

女子

洞院家奉公
康忠死去之時
依申置擬康世
養父内外加扶
持令致本所
公廷奉公

後深草
亀山北面
帯刀左衛門
建長二正十三
使宣肥前守

康衡 左兵尉
左衛門尉北面

康光

康興

後嵯峨院北面
近習寵愛無
双餘被許直
奏希代朝恩也
左衛門尉若人也

亀山後宇多
北面帯刀
壹岐守従五下
文保二正廿五
使 使宣叙留右衛門尉

康氏

康行
北面

正長二九廿二於本所
洞院家被殺害子
時所司也院所司
後小松院北面
左衛門尉改基

康教

康秋

康継

右衛尉
所衆

康房

康基

建武三八十五始
瀧口右衛門尉

康信

康助

延政門院播磨
御簡衆

女子
小沢侍従妻
飛鳥井康子

康懐

弘ノ三十

国立国会図書館　タイトル『編纂本朝尊卑分脈図脱漏 3巻』 請求記号 839-26

ガラス使用

839
3
26

- 康卿 花園院 北面左衛門尉
  - 康國 左衛門尉
    - 康房 左門尉 刑部亟
  - 康村 參南方 左衛門尉
    - 康古 呵衆 左衛門尉
      - 康圓 阿闍梨
    - 康藤 參南方左衛門尉
      - 康弘 左衛門尉
      - 康方
    - 康直 左衛門尉
    - 女子 住高島
    - 女子 後醍醐院若水御簡衆 長江出羽守貞親妾
- 康久 後嵯峨院北面 弘安九正十三使宣 同十二廿叙留左衛門尉 從五下正應二豊後守
  - 康長 後宇多院 使 北面左衛門尉
    - 康次 左門尉
  - 康友
  - 康茂

国立国会図書館　タイトル『編纂本朝尊卑分脈図脱漏 3巻』 請求記号 839-26
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『編纂本朝尊卑分脈図脱漏 3巻』 請求記号 839-26

ガラス使用